

神戸薬科大学 図書館ニュース

No.50
2019.4

Contents

① 新図書館長に就任して思うこと

英語第二研究室
教授 玉巻 欣子

③ ブックガイド(専門分野別)

脳 この不思議な臓器への誘い
薬理学研究室
教授 小山 豊

⑤ ブックガイド(新着資料から)

『目で見る生化学入門 第3版』

⑥ 薬剤師のためのDI資料33

薬学臨床教育・研究センター
臨床特命教授 渡 雅克

⑦ 受入図書から

⑨ 図書館の思い出

薬学基礎教育センター
特任教授 小山 淳子

⑩ 「図書館ニュース」から読む

神戸薬科大学図書館の「平成」

⑪ 2019年度学術雑誌について・お知らせ

旧図書館タイル

現在の4号館がある場所には元は旧図書館が建っていました。1948年に薬学専門学校から新制大学への昇格を実現させるために、卒業生を初めとした多くの人々の努力によって、当時の他の薬科大学には類例のない立派な独立図書館が建設されました。

その後増改築のため1976年に取り壊されましたが、記念として旧図書館の正面に張られていたタイルが4号館ビロティに残されています。

プレートには次の銘文が刻まれています。
「この壁のあたりに／このタイルを張った／図書館を建てた。／この大学を／実現させるために。」

(昭和23年当時の教職員同窓生他)



新図書館長に就任して思うこと

図書館長 玉巻 欣子
(英語第二研究室 教授)

内田吉昭先生の後任として、この度神戸薬科大学図書館長を拝命いたしました。私は本学に就任して8年目になりますが、前任校で図書委員を経験しています。新設大学でしたので蔵書も少なく、図書室と呼んでもよいような小さな図書館でした。蔵書の充実が当時最大の課題でした。大学図書館の運営方法を研究するために、図書委員会の教職員で手分けして他大学図書館の見学に行き、図書委員会で報告し合ったことを懐かしく思い出します。その時の私は、生まれたばかりの小さな大学図書館の一図書委員に過ぎませんでした。今回は90年近い歴史を誇る神戸薬科大学図書館の図書館長です。その重責に身の引き締まる思いです。伝統ある本学の教育・学術研究に役立つ、よりよい図書館の構築を目指して精一杯職責を果たしたいと思っております。皆様のご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

大学図書館の主な役割は、(1)大学教育および学術研究活動のための学術情報提供、(2)大学教育の支援、そして(3)教養のための出版物・資料の収集と提供だと思えます。本稿ではこの3つの役割について、本学の図書館の現状を交えながら論を進めていきたいと思えます。

(1)海外学術雑誌の電子ジャーナルをはじめとする電子情報資源へのアクセスを保証することは大学図書館の最も重要な役割です。アクセス方法が利用者に分かりやすいことも必須です。本学図書館のホームページ(HP)では、蔵書検索(OPAC)を始め、電子ジャーナルリスト、電子ブックリスト、データベースが大変分かりやすく載せられています。学生の皆さんも必要な論文や情報を効率よく見つけれられるのではないかと思います。

学術研究活動において、必要な論文のフルテキストを大学図書館の電子ジャーナルから無料で即入手できる環境が理想的です。しかし電子ジャーナル購入に関しては大きな課題があります。年々高騰する海外学術雑誌を限られた予算内で購入しなくてはならない問題です。海外学術雑誌の値上げに伴い購入雑誌数を減らす必要が出てくるわけです。出版社からのパッケージ契約を利用するなどの方法で、出来るだけ多くの雑誌を提供できるよう図書館も努力していますが、各研究室にもご理解・ご協力をお願いしなくてはならない状況です。

(2)文科省はHP上の報告「大学図書館の整備について」(<http://www.mext.go.jp/>)において、「大学における教育



に関しては、学生は授業を受けるだけでなく、より自発的な学習や実践の必要性が重視されてきており、大学図書館にもその支援の「場」の提供や図書館職員等による学習支援が期待されている。」と言及しています。本学図書館で試行されているラーニング・commonsもこのような自律的学習の必要性から生まれてきたものです。

大学図書館に、図書館職員によるサポートという機能があることは案外知られていないかも知れません。私は2年生必修科目「総合文化演習」で『闘病記から医療を考える』というテーマでゼミを行っています。毎年図書館で情報検索の仕方についてのガイダンスを実施してもらっています。ガイダンスの資料や演習内容が、ゼミテーマに合わせてカスタマイズされていたので最初大変驚きました。資料の探し方、レポートの準備の仕方などで分からないことがあれば図書館で尋ねてみるという選択肢があることを知ってもらえたらと思います。

(3)「教養のための出版物の提供」は、「学術研究活動のための学術情報提供」と共に大学図書館の役割の両輪を成すものだと私は考えています。東京大学大学経営・政策研究センターが2008-2009年に実施した全国大学生調査で学部間の比較

がされており、興味深い結果が出ていました。調査項目中に、「知識・技能の自己評価」というのがあり、「分かりやすく話す力」「論理的文章力」「幅広い知識・視野」が「十分」と回答した薬学生の割合が他学部生よりも低かったのです。

読書を通して様々な世界を疑似体験することにより、私達は幅広い知識・視野を得ることができます。薬学生の皆さんは勉強が過密なので、濫読（何の方針も立てず、手当たり次第に書物などを読むこと）する余裕が無いかもしれませんが、機会を見つけては本を手にとってほしいと思います。論理的に思考する力、論理的な文章を書く力も、読書によって涵養されるのです。最も身近で、お金をかけずに本と出会う場所である図書館に立ち寄ってみてください。

最後になりますが、本学図書館は数年のうちに新しく建設される新棟内に移転・開設される予定です。オンライン検索中心の学術情報基盤としての図書館、書架めぐって本を取り、ゆっくり読書できる図書館、木目調で落ち着いた図書館、モダンなデザインの図書館・・・新たな図書館の在り方に夢も膨らみます。新図書館長として皆様からのご意見に耳を傾けながらよりよい図書館にできればと願っています。

ブックガイド（専門分野別）

脳 この不思議な臓器への誘い

教授 小山 豊（薬理学研究室）



“脳”と言う臓器を研究の対象とした時、その手法は様々である。ある者は記憶や思考の回路として人工知能開発のヒントを得るため、その構造や機能を解析する。またある者は、心・精神の在処として哲学的なテーマで、この臓器をとらえる。一方、薬学を研究する者は、先ず、医薬品が作用する疾患関連分子を数多く有する臓器と考えるだろう。このように脳研究が取り挙げる領域は、生命科学から、心理学、行動科学、システム工学、数学と幅広い。文部科学省も脳科学をこれからの先端科学重点推進領域として、平成15年より脳科学に関する検討会を立ち上げ、「脳科学研究推進プログラム」に基づく多分野の研究を推進している。このように脳は、多くの研究者の関心を惹く不思議に満ちた臓器である。私は、本学で神経薬理学の研究を行っているが、自身が脳研究を目指す端緒となったのも一冊の本であった。それは、大学3年次に読んだ「脳の設計図（伊藤正男著、自然選書）」である。当時の脳研究は、記憶や学習機能をもたらすシナプス可塑性を、分子レベルで解明し始めた頃で、本書にもこれからの脳科学のテーマとして「心の分子メカニズム」の解明が挙げられていた。それから30年、多くの研究がされたのに関わらず、“神経細胞によって構築された臓器にどうして心が宿るのか”との命題は、未だ明かされていない。本稿では学生当時の事を思い出しながら、今後、この命題に取り組もうとする諸君が現れることを願い、脳科学の入門書に相応しい3つの書籍を紹介しようと思う。

「【大人のための図鑑】脳と心のしくみ」

（池谷裕二 監修）新星出版社

本書は、東京大学で薬学を修め、脳科学に関する著書を数多く持つ池谷裕二氏が監修した2015年発行の新刊である。「図鑑」とあるように、本書の特徴は全編を通して見開きのページごとに、ひとつの項目がカラーの図を中心に簡潔に解説され、見て楽しいものとなっている。脳研究に興味を持つ学生諸君には、良きガイドとなると思われる。また「第1章 脳の機能を知る」や「第4章 脳と心の病気」では、組織から分子レベルでの脳の構造と中枢神経

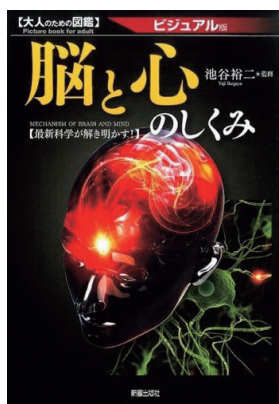
疾患の原因を解説しており、薬学生にとって機能形態学や病態生理学の参考書としても活用できる内容である。

「ストレスの脳科学 予防のヒントが見えてくる」
(田中正敏 著) 講談社

我々の生活は常にストレスに晒され、過剰なストレスは、うつ病など心の病気の誘因となる。我が国でも2015年より、職場での雇用者のストレス度チェックが義務付けられ、ストレスから健康を守る事への関心が高まっている。脳は受けたストレスに順応できるよう身体機能を調節するが、心の変化はこの脳の機能にも影響し、その結果、身体的な不調となって表れる。本書は、ストレスが脳に与える機能的な変化や脳内物質の測定によるストレス度合いの評価法など、ストレスによる心身変調のメカニズムに関する最新の脳研究を紹介し、その中からストレスから心身を守る手段を論じている。薬理学者である著者の解説は、専門知識を要する部分もあるが、薬学生なら十分に理解できるであろう。

「快感回路:なぜ気持ちいいの、なぜやめられないの」
(ディビット・J・リンデン著) 河出文庫

食欲、性欲など生きる上で必須の欲求。または自己顕示欲、権勢欲など人間関係のなかで生じる欲求。これらが満たされた際に、我々は快感を感じる。この快感とは動物の行動をコントロールするため脳が与えるご褒美である。下等な動物の行動は、快感の有無でのみ決められるが、人間の場合は、快感に導かれる“本能”に“理性”と言うブレーキが働く。しかし、快感を求めることに心が傾くと、理性を超えて“わかっているけど、やめられない”状態となる。これが「依存」である。神経科学者である著者は、本書において、「快感」と「依存」を生む脳の仕組みを一般向けに解説している。快感回路と本書が呼ぶ脳内報酬系の発見から、薬物、ギャンブル、摂食、アルコールなどの依存に陥る分子メカニズムを脳科学の知見を解りやすく紹介している。また依存症となった患者の治療に向けた、実験的な試みについても取り上げられている。



脳と心のしくみ最新科学が解き明かす！
ビジュアル版

池谷裕二 監修 新星出版社



ストレスの脳科学
予防のヒントが見えてくる

田中正敏 著 講談社



快感回路 なぜ気持ちいいの
なぜやめられないの

デイヴィッド・J・リンデン 著 岩坂彰 訳
河出文庫

ブックガイド(新着資料から)

<電子ブック(動画)>

『目で見える生化学入門 第3版』(医学映像教育センター 2017 全5巻)

『目で見える生化学入門』が14年ぶりに改版され、さらにオンラインで視聴ができるようになりました。生化学の主要な項目が1巻30分程度の動画でわかりやすく解説されており、最新のCGアニメーションによりさらに直観的なイメージが掴みやすくなっています。教科書と合わせて予習・復習の資料としてぜひご利用ください。

【視聴方法】

■学内で視聴する場合

1. 学内PCまたは無線LANに接続したスマホなどを用意する。
2. 図書館ホームページにアクセスし、トップページの「電子ブックリスト」のボタンを押す。
(または右のQRコードから直接アクセス)
3. 「[動画] 目で見える生化学入門 第3版」の項目のなかから、視聴したい巻のリンクを押す。
4. 「視聴」ボタンを押した後、開いたページで「読む」ボタンを押すと再生画面が表示される。



■学外から視聴する場合(ユーザー登録方法)

初回のみ学内からユーザー登録する必要があります。登録後は学外でもログインすることで視聴可能になります。

[図書館ホームページ ▶ 電子ブックリスト ▶ リモートアクセス利用について\(PDF\)](#)

ユーザー登録の仕方については、以下の手順でアクセスしてご確認ください。

※いずれも同時アクセスは1となっています。アクセスできないときは時間を置いてご利用ください。



他にもこんな電子ブックがあります。

- ・ 科研費獲得の方法とコツ 改訂第6版 (児島将康著, 羊土社)
- ・ 実験で使うとこだけ生物統計 改訂版 (池田郁男著, 羊土社)
- ・ キクタンメディカル: 聞いて覚える医学英単語 (高橋玲著, アルク)
- ・ ベッドサイドの薬理学 (笹栗俊之他編, 丸善出版)
- ・ ポリファーマシー見直しのための医師・薬剤師連携ガイド (日本老年薬学会他編, 南山堂)
- ・ わかりやすい内科学 第4版 (井村裕夫他編, 文光堂)
- ・ 遺伝子医学MOOK:31 がん免疫療法 (池田裕明他編, メディカルドゥ)
- ・ 患者指導のための剤形別外用剤Q&A (大谷道輝編, 南山堂)
- ・ 臨床薬学テキストシリーズ 薬者と社会 (望月真弓他編, 中山書店)
- ・ これからレポート・卒論を書く若者のために 第2版 (酒井聡樹著, 共立出版)

薬剤師のためのDI資料33

『3ステップで推論する副作用のみかた・考えかた』

川口崇、岸田直樹 編著 じほう

臨床における薬剤師は、患者個々の薬物療法において、その有効性と安全性を評価することが求められる。

医師や看護師、患者から「これって薬の副作用?」と質問された時、参照する基本的な情報源、添付文書、インタビューフォーム、学術論文などからそれらに記載があれば「副作用だと思います」記載がなければ「副作用ではありません」と回答してしまうケースはなかっただろうか。

「これって薬の副作用?」は、どの医療従事者も経験するが、この有害事象について、薬剤性なのか病状の進行なのかその判断は非常に困難な場合が多い。薬の副作用を疑った場合、医薬品に関する知識だけでなく病態生理学などの知識を駆使して推察していくことになる。実際、薬の副作用かどうかグレーであっても、その被疑薬を中止するか、減量し継続するか判断が迫られる場面も多い。

本書はこうした副作用の判断を、①薬が原因である可能性、②薬以外が原因である可能性、③それらの考え方を統合し処方提案や安全対策の立案を行う過程を3段階に分け、実際に経験した17の事例に基づき、薬剤師が副作用を含めた鑑別すべき疾患とそのもっともらしさを以って推論する過程を示し解説している。

薬剤師が患者個々の薬物療法を評価し、その有効性と安全性の確保に向けた薬剤マネジメントを行う上で、本書は副作用に関する基本的な考え方から、症例を通して副作用かどうかの見極め方・考え方を学ぶことができる書籍である。

臨床特命教授 渡 雅克(薬学臨床教育・研究センター)



3ステップで推論する
副作用のみかた・考えかた

川口崇、岸田直樹 編著 じほう

受入図書から



南杏子 著 幻冬舎
サイレント・ブレス

人の死に立ち会ったことはありますか?この小説では、内科医として多くの人の死を見届けてきた著者が、穏やかな終末期を迎えることができる医療とは何かについて教えてくれます。様々な年齢層の患者の最後の日々について、実際に経験したのではないかと思うくらいリアルに、時にはユーモラスに、そしてミステリアスに描かれており、とても読みやすいです。医療に携わる人にぜひ読んでいただきたい一冊です。

(N)

京都大学大学院薬学研究科 編
化学同人
くすりをつくる研究者の仕事
一葉のタネ探しから私たちに届くまで

4年生になると卒業研究が始まりますが、各分野の研究は創薬にどう関わるのでしょうか?この本は、薬学部の実験の先生方により執筆されており、新薬が作られるまでの過程と、そのためにどのような研究が行われるかについて、「研究室ごとに」実際に薬の名前を挙げながら紹介しています。少し難しい話も出てきますが、卒業研究を頑張っている皆さんにも、これからゼミ配属の分野を決める皆さんにも、是非読んで欲しい一冊です。

(Y.N.)



小湊悠貴 著 集英社オレンジ文庫
ゆきうさぎのお品書き
熱々おでんと雪見酒

「小料理屋」と聞いた時、みなさんはどのようなイメージをもちますか?大学生の私たちにはあまり近くに感じない場所ではないでしょうか。しかし、この本の舞台「小料理屋 ゆきうさぎ」は私たちと同じような世代の主人が営むお店で、そこに集まる人々の物語もなぜか身近に感じることが出来ます。そして読み進めていくと美味しそうな料理と登場人物たちのそれぞれの生活に心が温まっていく、そんな一冊です。

(パンギン)



2018年(平成30年)2月～2019年(平成31年)1月

書名	著(編)者名	出版社
科学者の研究倫理：化学・ライフサイエンスを中心に	田中智之 他	東京化学同人
医療系のための物理学入門	木下順二	講談社
薬学のための基礎化学	石川さと子, 望月正隆	化学同人
NMR入門：必須ツール基礎の基礎 (Chemistry primer series 2)	P.J. Hore	化学同人
よくわかる薬学機器分析 第2版	藤岡稔大 他	廣川書店
天然有機化合物の全合成 (CSJ Current Review 27)	日本化学会	化学同人
研究室で役立つ有機実験のナビゲーター 第3版	James W. Zubrick	丸善出版
Experimental organic chemistry 3rd ed.	Philippa B. Cranwell 他	John Wiley & Sons
Organic chemistry : structure and function 8th ed.	Peter Vollhardt , Neil Schore	W.H. Freeman
遺伝子：親密なる人類史	シッタールタ・ムカジー	早川書房
細胞・組織染色の達人 (実験医学別冊)	大久保和央	羊土社
終末期医療のエビデンス	Stephen J. McPhee 他	日経BP社
JMPIによる医療・医薬系データ分析	内田治 他	東京図書
超簡単!!研究倫理審査と申請：適正な臨床・疫学研究の推進に向けて	飯嶋久志 他	薬事日報社
ヴォート基礎生化学 第5版	D. Voet 他	東京化学同人
あなたのタンパク質精製、大丈夫ですか? (実験医学別冊)	胡桃坂仁志, 有村泰宏	羊土社
臨床薬物動態学：臨床薬理学・薬物療法の基礎として 改訂第5版	家入一郎, 楠原洋之	南江堂
いちばんやさしい薬理学	木澤靖夫	成美堂出版
医薬品副作用アセスメント	宇野勝次 他	南山堂
こわいもの知らずの病理学講義	仲野徹	晶文社

湊かなえ 著 幻冬舎文庫
山女日記

あなたは今悩んでいることがありますか？
本書は、人生において、結婚、友人関係、仕事や恋人との関係などさまざまな悩みや不安を抱えた女性達の物語です。複雑な心理描写と綿密な風景描写が、自分を深く物語に引きこみます。読み終えると、自分の人生を見つめ直すきっかけになるかもしれません。

(N.W)



辻村深月 著 ポプラ社
かがみの孤城

不登校というテーマをリアルに描きながらも、ファンタジーを交えた読みやすい作品です。学校に居場所を失ったところの前に、突然鏡の世界が現れます。鏡の内外での人々との出会いがこころの内面に変化を与えていきます。逃げてもいい、嫌いな人は嫌いでもいいと肯定してくれ、さらに他の居場所の存在、世界があるということに気付かせてくれます。多くの方に読んでもらえたらと思います。

(D)

佐藤多佳子 著 新潮社
明るい夜に出かけて

『一瞬の風になれ』（本屋大賞受賞作）の著者による、実際のラジオ番組をモデルとした青春小説です。対人関係に悩みを抱え休学中のトミヤマは、コンビニで深夜のバイトを始めます。ネットとリアル。そのどちらにも傷つき、また救われながら、光を見だしていく様が丁寧に描かれています。今どきのリスナー投稿が、SNSで進化していることにも驚きました。ラジオに親しんだ経験のある方はぜひご一読ください。

(H.M)



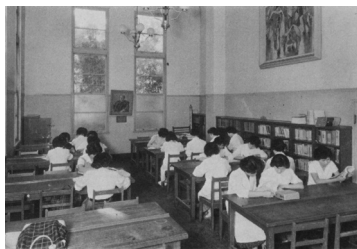
(化学・医学・薬学分野より一部抜粋)

書名	著(編)者名	出版社
分子細胞免疫学	Abul K. Abbas 他	エルゼビア・ジャパン
健康サポート薬局かかりつけ薬剤師のための臨床判断ハンドブック	福生吉裕 他	じほう
薬剤師が実践するフィジカルアセスメント 改訂版	西尾廣昭 他	ふくろう出版
患者さん中心でいこうポリファーマシー対策	宮田靖志, 矢吹拓	日本医事新報社
薬剤師のための疾患別薬物療法：病態を理解して組み立てる 改訂第2版	日本医療薬学会 他	南江堂
糖尿病・内分泌疾患ビジュアルブック 第2版	林道夫, 渋谷祐子	学研メディカル秀潤社
高齢者の服薬支援：総合力を活かす新知識と実践	秋下雅弘, 倉田なおみ	講談社
フローチャート高齢者漢方薬：フレイルこそ漢方のターゲット	新見正則	新興医学出版社
老年薬学ハンドブック	日本老年薬学会	メディカルレビュー社
高次脳機能障害：医療現場から社会をみる	山口研一郎	岩波書店
アルツハイマー病の謎：認知症と老化の絡まり合い	マーガレット・ロック	名古屋大学出版会
環境による健康リスク (生涯教育シリーズ)	村田勝敬 他	日本医師会
よくわかる地域包括ケア (やわらかアカデミズム・「わかる」シリーズ)	隅田好美 他	ミネルヴァ書房
新しいチーム医療 改訂版	田村由美	看護の科学社
グラフィックガイド薬剤師の技能：理論まるごと実践へ 第2版	高田充隆	京都廣川書店
薬局ですぐ使える接客・会話・手話マナーブック 第2版	総合メディカル薬局事業本部	じほう
医薬品情報学	橋詰勉, 栄田敏之	廣川書店
OTC薬とセルフケアサポート：症状からの適剤探し	宮田満男 他	薬事日報社
創薬科学入門：薬はどのようにつくられる? 改訂2版	佐藤健太郎	オーム社
ゲノム創薬科学	田沼靖一	裳華房

図書館への感謝と、その未来に思いを馳せて― 図書館の思い出

学生時代の図書館について思い出そうとしたが、何しろ半世紀近く前のことになるので、断片的にしか出てこず、記憶違いがあるかもしれない。

私の大学入学時には、図書館は1号館の現在と同じ場所にあり、その前身である古色然とした旧図書館は現在の4号館ピロティ辺りに壊されずに建っていて、クラブの部室として使われていた。図書館には面白い本(学習関係ではない)を探しに行ったら、館内がどうなっていたかなどはあまり覚えていない。私は2つのクラブを掛け持ちしていたので、どちらかという旧図書館によく出入りしていた。



旧図書館閲覧室

図書館を本格的に利用したのは、4年生になり薬化学のゼミに所属してからである。「芳

香族化合物の合成」というテーマを与えられ、自分たちでその合成経路を考えねばならず、そのための文献を探しに図書館に行った。当時は、Chemical Abstracts(1907年)やBeilstein(1771年)などの化学および関連分野の文献抄録誌から、キーワード、化学物質、分子式、一般項目などの索引を引いて該当の化学物質を見つけて、そこに書いてある要約から必要な論文を探した。できるだけ多くの関連論文を見つければと思うので、直近のアップデートだけでなく、何十年か或いはそれ以上遡り、探すのに何日もかかった。やっと探したその論文が本学図書館にあれば、すぐにその論文から自分の欲しい情報を得ることができるが、無いときは他大や国会図書館などにコピーを頼んで、手元に届くまで何日か待たなくてはならなかった。苦労してやっと立てた合成経路であつても実験してうまくいかなければ、また図書館に行つて、実験方法のどこが悪いのかなどを文献探索した。大学教員になつてからはさらに、図書館を利用することが多くなった。研究する者にとって図書館は

非常に重要な場所であった。

しかし、情報技術の急速な進展により、図書館は研究・教育に必要な多くの資料を電子化し、レファレンスサービスの充実を図っていった。その結果、最近では図書館に行かなくても、研究室や自宅から情報ネットワークを通じて必要な情報を入手できるようになった。

「大学図書館は、大学における学生の学習や大学が行う高等教育及び学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤の役割を有しており、大学の教育研究にとって不可欠な中核を成し、総合的な機能を担う機関の一つである。」というのが大学図書館の基本的機能であり、その重要性は変わるものではないが、大学図書館の変化を目的の当りにしてきた世代の者にとっては、本学及び大学図書館を巡る大きな環境変化の中で、神戸薬科大学図書館も多様な課題に直面していることが感じとれる。図書館の必要性を踏まえ、母校の図書館が今後どのように変化していくか、興味を持って見守っていきたいと思う。

特任教授 小山 淳子

(薬学基礎教育センター)



旧図書館



「Chemical Abstracts」



「Beilstein」

「図書館ニュース」から読む

神戸薬科大学図書館の「平成」

「図書館ニュース」はおかげさまで今号で50号を迎えました。「平成」が始まった1989年4月に創刊してから今年で31年目にあたります。ここではそのバックナンバーの記事から図書館の変化に関する情報をピックアップしました。図書館の「平成」を振り返ってみましょう！



「図書館ニュース」創刊(1989年)

図書館の資料が十分に利用されていないことを憂えた当時の館長 森五彦先生が、購入資料の紹介を基本的な目的として創刊しました。



震災により館内の一部で被害が発生(1995年)

本や雑誌のみならず、棚が倒壊するなどの被害がありました。



館内改装(2007年)

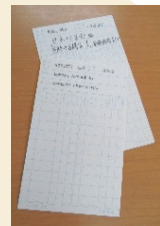
古い閲覧机や椅子を新調するなど、館内を一新しました。

- 1989
 - ・平成元年
 - ・「神戸女子薬科大学図書館ニュース」創刊
- 1991
 - ・所蔵資料のコンピューター検索が可能に
 - ・バブル崩壊
- 1994
 - ・神戸薬科大学に名称変更(男女共学)
 - ・誌名変更「神戸薬科大学図書館ニュース」
 - ・LIBRARY GUIDE(図書館のしおり)を発行
- 1995
 - ・阪神淡路大震災
 - ・震災により館内の一部で被害が発生
- 1996
 - ・図書館ホームページ開設
 - ・5号館竣工
- 1997
 - ・開館時間延長
 - ・甲南大学図書館との相互協力を開始
- 2000
 - ・大学院開講日の開館時間延長
 - ・館内システム整備
 - ・10号館(神戸薬科大学ライフサイエンスセンター)竣工
- 2001
 - ・1号館4階に学生自習室Ⅰ、Ⅱを開設
 - ・夜間無人開館利用開始
 - ・ユニバーサル・スタジオ・ジャパン開業
- 2002
 - ・初の有料電子ジャーナル『Science』『Nature』を契約
 - ・データベース『SciFinder Scholar』を導入
 - ・日韓ワールドカップ開催
- 2003
 - ・LIBRARY CARDと学生証を一体化
- 2005
 - ・大判プリンターのポスター印刷サービスを開始
- 2006
 - ・学部6年制教育開始
 - ・薬学基礎教育センター開設
- 2007
 - ・エクステンションセンター、薬学臨床教育センター開設
 - ・館内改装
 - ・生協とのコラボ企画「読書マラソン」を開始
- 2008
 - ・携帯電話から所蔵資料の検索が可能に
 - ・11号館竣工
- 2009
 - ・データベース「医中誌Web」を導入
- 2011
 - ・リンクリソルバを導入
 - ・東日本大震災
- 2013
 - ・80周年記念館(6号館)竣工
 - ・LIBRARY GUIDEリニューアル
- 2014
 - ・神戸薬科大学機関リポジトリを公開
- 2015
 - ・3・4階閲覧室をラーニング・コモンズとして試験的に開放開始
- 2017
 - ・甲南女子大学図書館との相互協力を開始
 - ・8号館(研究棟)竣工



所蔵資料のコンピューター検索が可能に(1991年)

それまでは、このような紙のカードに書かれた情報を見て一つ一つ探していました。



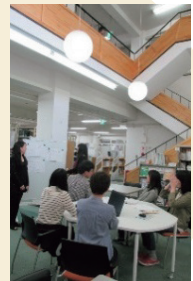
システム整備(2000年)

決まった端末からしか探せなかった資料をオンライン(Web)で探せるようになりました。また、自動貸出返却装置を使って自分で貸出ができるようになりました。

昔は本の後ろの貸出カードを使っていました。

ラーニング・コモンズを試験的に開始(2015年)

閲覧室が話し合いながら学習できる場所として利用できるようになり、それまで常識だった静かに勉強をする場所というイメージが変わりつつあります。



*青字は大学全体の沿革

*グレーの字は社会の主なニュース

2019年度学術雑誌について

●新規購読

(電子ジャーナル)

1. Neuron

●冊子購読を中止し、電子媒体のみの購読へ移行

(シリーズ洋書)

1. Advances in Biological Regulation
2. Advances in Protein Chemistry and Structural Biology (洋雑誌)
1. Journal of Biochemistry

●エルゼビア社の雑誌について

パッケージ契約により閲覧可能範囲を拡大しました。以下のサブジェクトコレクションのタイトルが閲覧できます。

1. Pharmacology, Toxicology and Pharmaceutics (継続)
2. Biochemistry, Genetics and Molecular Biology (新規)
3. Chemistry (新規)
4. Health Sciences (新規)
5. Immunology and Microbiology (新規)
6. Neuroscience (新規)

図書館ホームページの電子ジャーナルリストからご利用ください。

●バックファイルの購入について

以下のバックファイル(電子ジャーナル)を購入しました。これにより初号から最新号まで閲覧可能となりました。

1. RSC Journals Archive
Royal Society of Chemistry(英国王立化学会)が1841-2007年の間に発行したすべての雑誌記事
2. Thieme社
・Synlett 1989-2018年
・Synthesis 1969-2018年

3. Wiley社

- ・Angewandte Chemie International Edition 1962-1997年
 - ・Chemische Berichte(現タイトルEuropean Journal of Inorganic Chemistry) 1868-1997年
 - ・Chemistry A European Journal 1995-1997年
 - ・Helvetica Chimica Acta 1918-1998年
 - ・Liebigs Annalen(現タイトルEuropean Journal of Organic Chemistry) 1832-1997年
 - ・Journal of Heterocyclic Chemistry 1964-1996年
 - ・Journal of Neurochemistry 1956-1996年
 - ・Journal of Pharmacy and Pharmacology 1949-1996年
- 図書館ホームページの電子ジャーナルリストからご利用ください。

●電子ジャーナルコンソーシアム参加

1. American Chemical Society (継続)
 2. Oxford University Press (継続)
 3. Rockefeller University Press (継続)
 4. Royal Society of Chemistry (継続)
 5. ScienceDirect (継続)
 6. Science Online (継続)
 7. Springer Nature (継続)
 8. Thieme (継続)
 9. Wiley (継続)
- 各コンソーシアムによって年毎に利用できるタイトルが変更されることがあります。

Wiley社についてはPay Per View利用が可能です。

お知らせ

●今号より「神戸薬科大学図書館ニュース」をB5サイズ・フルカラーにリニューアルしました。

●2019年4月より、「KPU電子図書館(LibrariE)」のサービスを開始します。電子ブックの貸出、返却、予約ができるようになります。長期休暇や学外実習期間には、自宅から利用できる電子ブックが便利です。詳しくは図書館ホームページ「電子ブックリスト」や図書館からのお知らせをご覧ください。

●4月下旬から約1ヶ月程度、館内工事が予定されています。期間中、図書館は休館となります。

詳細は図書館ホームページや各種お知らせをご覧ください。

編集後記

今号より、リニューアル版をお届けします。より親しみやすい誌面を目指して新しく生まれ変わりました。

平成元年に初号が発刊されて丸30年。ちょうど新しい元号が始まる年に記念すべき第50号を発行することができました。今号はもちろん、これまでの皆様からのご寄稿にあらためて心より感謝申し上げます。

紙から電子へと世の中が激変していくなか図書館で取り扱う資料も様変

わりしましたが、館内資料をもっとPRして利用促進に繋げたい、図書館の活動を広くお知らせしたい、という創刊当初の目的は今も変わりません。

多くの方々によって守られ支えられてきた図書館に想いを馳せながら、これからも初心を忘れず、皆様と図書との出会いを少しでもお手伝いできれば嬉しく思います。

今後も変わらぬご支援をよろしくお願いたします。(N)



*「神戸薬科大学図書館ニュース」のバックナンバーは図書館ホームページで公開しています。

神戸薬科大学図書館ニュース No.50

2019年4月1日発行 神戸薬科大学図書館 〒658-8558 兵庫県神戸市東灘区本山北町4-19-1

TEL (078) 441-7512 URL <https://www.kobepharma-u.ac.jp/library/>